



[トップ](#) [暮らしの情報](#) [文化・スポーツ](#) [生涯学習・社会教育](#)

ひので映画大使最新版

[2015年3月18日]

第57回映画大使「アメリカン・スナイパー」

- ・ 期日 平成27年2月21日(土曜日) ※公開初日!
- ・ 場所 イオンシネマ日の出

作品紹介

人並み外れた狙撃の腕から、アメリカ軍の伝説的スナイパーとして名高い、クリス・カイルの自叙伝を映画化。海軍特殊部隊「ネビーブー・シールズ」の彼が、イラク戦争で「仲間を守るため」に引き金を引き続け、英雄視される一方で敵軍からは恐れられ、その首には賞金がかけられる。

やがて彼は、心に深い傷を負っていく・・・。

巨匠、クリント・イーストウッドが「戦争」という極限の中での人間の生き様を描きます。



(C) 2014 VILLAGE ROADSHOW FILMS (BVI) LIMITED, WARNER BROS. ENTERTAINMENT INC. AND RATPAC-DUNE ENTERTAINMENT LLC

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

映画大使の「第一声！」

- ☆ 戦場のリアルさが伝わってきました。
- ☆ 戦争はいつなくなるのでしょうか・・・。
- ☆ クリント・イーストウッド監督のメッセージとは？
- ☆ エンドロールはある意味衝撃的でした。
- ☆ 俳優さんの演技も良かったですね。



今回参加された、映画大使の皆さんです！

映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

20世紀は戦争の世紀と言えますが、21世紀はその悲惨さを教訓にしなければいけないのに、主義や考え方、エゴなどで戦争は絶えません。人類の未来のためには、消耗以外何も生み出さない戦争というものを無くし、人類そのものにとってのバランスを保たなければいけないと思います。

Bさん

衝撃的な作品でした。戦争とは恐ろしいですね。

Cさん

全く無音のエンディングは初めてです(最後のエンドロールでBGM等が一切かかりませんでした)。席を立つ人がいましたが、無音だからこそ、最後にこの作品について考えて欲しかったと思いました。自分の仲間を守ったり、助けに行くのは、人間ならではの行動ですが、それが元で戦争になったりするのも事実だと思います。人間がもっと成長しないとイケないのかもしれないかもしれません。難しいですね。

Dさん

今まで多くの戦争映画を観たからなのか、少し目が慣れてしまったのか、アクション風に観えてしまった部分があり、自分で驚きました。イーストウッド監督は、客観的にありのままを見せて、あえて戦争を肯定も否定もしなかったように思います。観た者に委ねるという感じですね。ただ、例えば帰国していても心に傷を持ってしまったシーンなどは、戦場の怖さが引き立っていました。いろいろな意味で考えさせられる作品でした。

Eさん

無音のエンドロール、私は黙祷の時間にしていました。大使の皆さんからもいろいろな意見が出たところで、この作品は成功だったのかなど、私は思います。映画としてはテンポが良かったですね。ただ、メッセージ性や観てどう感じるかは、人それぞれが感じるものなので、この映画大使での話し合いは本当に大切だと思います。私も観ながら、「人って何だろう?」「人生ってなんだろう?」「英雄って何かな?」とか自分に問いかけながら観ていました。

Fさん

映画でありながら、ドキュメンタリーを観ている感覚でした。実際はもっとすごい戦場なのでしょうけど、イーストウッド監督も静かに、愛国でもなく、反戦でもなく、「戦争ってこういうものなのだから皆も考えて」というのをじわじわと伝えているように感じました。観た人それぞれに本当に考えてほしいですね。

Gさん

淡々とシーンが進みますが、私もドキュメンタリーっぽく感じました。大きな感動とかはありませんが、無音のエンドロールのあの長い時間が、この作品について考える時間だったように感じました。帰ったら子どもにも戦争について話そうと思います。どんな理由でも、人が人を殺めるとはどういう事なのかという事を。

作品の内容(印象に残ったシーンなど)

- ・異国の人と一人ひとりでは普通に付き合えるのに、政治など大きな力で戦争が起きてしまうのは、悲しいですね。
- ・戦闘や、狙撃のシーンなど、凄くリアルで恐ろしいほどでした。
- ・多くの人に観て欲しい、そして考えて欲しい作品ですね。
- ・この作品の主人公、クリス・カイルは実在の人物なのでですね。
- ・やられたから、やりかえすという感覚の延長が戦争に結びつくのは、怖いです。
- ・若者も観て考えて欲しいですね。

まとめ

「国のため」、「家族や仲間を守るため」、「仲間を殺されたから・・・」。戦う理由があるから、兵士達は今も戦場という極限の世界に身を投じているのですが、では戦争を始める人達は一体何のために戦争を始めるのでしょうか。考え方の違いやエゴだけで、「命」は勿論、多くのものを奪い去るこの「戦争」について考えるために、スクリーンという場を借りて多くの戦場がノンフィクション、フィクションも含め公開されてきました。この作品は大使の方も言っていたように、反戦なのか、ヒーローを描くのか、平和とは?という明確なテーマはないように感じます。あの無音のエンディングの時間の中で、どうか考えて欲しいと思います。イーストウッド監督のまさに「無言のメッセージ」だと強く感じます。

劇場の大スクリーンで是非、ご覧ください。

関連ページ

- ・ [これまでのひので映画大使](#)
- ・ [ひので映画大使のトップに戻る](#)

お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698

ひので映画大使最新版への別ルート

[トップ](#) [観光・歴史](#) [歴史と文化にふれる](#) [文化](#)

Copyright (C) Hinode Town All Rights Reserved.



[トップ](#) [暮らしの情報](#) [文化・スポーツ](#) [生涯学習・社会教育](#)

ひので映画大使最新版

[2015年3月18日]

第57回映画大使「アメリカン・スナイパー」

- ・ 期日 平成27年2月21日(土曜日) ※公開初日!
- ・ 場所 イオンシネマ日の出

作品紹介

人並み外れた狙撃の腕から、アメリカ軍の伝説的スナイパーとして名高い、クリス・カイルの自叙伝を映画化。海軍特殊部隊「ネビーブー・シールズ」の彼が、イラク戦争で「仲間を守るため」に引き金を引き続け、英雄視される一方で敵軍からは恐れられ、その首には賞金がかけられる。

やがて彼は、心に深い傷を負っていく・・・。

巨匠、クリント・イーストウッドが「戦争」という極限の中での人間の生き様を描きます。



(C) 2014 VILLAGE ROADSHOW FILMS (BVI) LIMITED, WARNER BROS. ENTERTAINMENT INC. AND RATPAC-DUNE ENTERTAINMENT LLC

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

映画大使の「第一声！」

- ☆ 戦場のリアルさが伝わってきました。
- ☆ 戦争はいつなくなるのでしょうか・・・。
- ☆ クリント・イーストウッド監督のメッセージとは？
- ☆ エンドロールはある意味衝撃的でした。
- ☆ 俳優さんの演技も良かったですね。



今回参加された、映画大使の皆さんです！

映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

20世紀は戦争の世紀と言えますが、21世紀はその悲惨さを教訓にしなければいけないのに、主義や考え方、エゴなどで戦争は絶えません。人類の未来のためには、消耗以外何も生み出さない戦争というものを無くし、人類そのものにとってのバランスを保たなければいけないと思います。

Bさん

衝撃的な作品でした。戦争とは恐ろしいですね。

Cさん

全く無音のエンディングは初めてです(最後のエンドロールでBGM等が一切かかりませんでした)。席を立つ人がいましたが、無音だからこそ、最後にこの作品について考えて欲しかったと思いました。自分の仲間を守ったり、助けに行くのは、人間ならではの行動ですが、それが元で戦争になったりするのも事実だと思います。人間がもっと成長しないといけないのかもしれないかもしれません。難しいですね。

Dさん

今まで多くの戦争映画を観たからなのか、少し目が慣れてしまったのか、アクション風に観えてしまった部分があり、自分で驚きました。イーストウッド監督は、客観的にありのままを見せて、あえて戦争を肯定も否定もしなかったように思います。観た者に委ねるという感じですね。ただ、例えば帰国していても心に傷を持ってしまったシーンなどは、戦場の怖さが引き立っていました。いろいろな意味で考えさせられる作品でした。

Eさん

無音のエンドロール、私は黙祷の時間にしていました。大使の皆さんからもいろいろな意見が出たところで、この作品は成功だったのかなと、私は思います。映画としてはテンポが良かったですね。ただ、メッセージ性や観てどう感じるかは、人それぞれが感じるものなので、この映画大使での話し合いは本当に大切だと思います。私も観ながら、「人って何だろう?」「人生ってなんだろう?」「英雄って何かな?」とか自分に問いかけながら観ていました。

Fさん

映画でありながら、ドキュメンタリーを観ている感覚でした。実際はもっとすごい戦場なのでしょうけど、イーストウッド監督も静かに、愛国でもなく、反戦でもなく、「戦争ってこういうものなのだから皆も考えて」というのをじわじわと伝えているように感じました。観た人それぞれに本当に考えてほしいですね。

Gさん

淡々とシーンが進みますが、私もドキュメンタリーっぽく感じました。大きな感動とかはありませんが、無音のエンドロールのあの長い時間が、この作品について考える時間だったように感じました。帰ったら子どもにも戦争について話そうと思います。どんな理由でも、人が人を殺めるとはどういう事なのかという事を。

作品の内容(印象に残ったシーンなど)

- ・異国の人と一人ひとりでは普通に付き合えるのに、政治など大きな力で戦争が起きてしまうのは、悲しいですね。
- ・戦闘や、狙撃のシーンなど、凄くリアルで恐ろしいほどでした。
- ・多くの人に観て欲しい、そして考えて欲しい作品ですね。
- ・この作品の主人公、クリス・カイルは実在の人物なのですよね。
- ・やられたから、やりかえすという感覚の延長が戦争に結びつくのは、怖いです。
- ・若者も観て考えて欲しいですね。

まとめ

「国のため」、「家族や仲間を守るため」、「仲間を殺されたから・・・」。戦う理由があるから、兵士達は今も戦場という極限の世界に身を投じているのでしょうか、では戦争を始める人達は一体何のために戦争を始めるのでしょうか。考え方の違いやエゴだけで、「命」は勿論、多くのものを奪い去るこの「戦争」について考えるために、スクリーンという場を借りて多くの戦場がノンフィクション、フィクションも含め公開されてきました。この作品は大使の方も言っていたように、反戦なのか、ヒーローを描くのか、平和とは?という明確なテーマはないように感じます。あの無音のエンディングの時間の中で、どうか考えて欲しいと思います。イーストウッド監督のまさに「無言のメッセージ」だと強く感じます。

劇場の大スクリーンで是非、ご覧ください。

関連ページ

- ・ [これまでのひので映画大使](#)
- ・ [ひので映画大使のトップに戻る](#)

お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698

ひので映画大使最新版への別ルート

[トップ](#) [観光・歴史](#) [歴史と文化にふれる](#) [文化](#)

Copyright (C) Hinode Town All Rights Reserved.